

内分泌攪乱化学物質問題に関する国際シンポジウム

**International Symposium
on
Environmental Endocrine Disruptors '98**

日時 : 1998年 12月 11日(金) ~ 13日(日)

会場 : 国立京都国際会館

主催 : 環境庁

協力 : 日本内分泌攪乱化学物質学会

御挨拶



内分泌攪乱化学物質(いわゆる環境ホルモン)問題は、いま、世界の最も重要な環境保全上の課題の一つとなっています。各国の政府、産業界、研究者等が、人類の存続に関わるおそれのあるこの深刻な問題を巡って、科学的な情報を収集し、対応策を検討しています。

私ども環境庁でも、これまで環境ホルモン問題の解決に向けて積極的な取り組みを進めてきました。今年5月には「環境ホルモン戦略計画SPEED '98」をとりまとめ、公表しました。現在、この計画に基づいて、全国で環境汚染の状況、野生生物への影響実態などの調査を進めています。また、環境庁の附属機関である国立環境研究所では、環境ホルモンに関する中核的な研究施設を整備しつつあります。

一方、去る6月には、この問題の科学的な解明を進めるために、様々な分野の科学者、技術者からなる「日本内分泌攪乱化学物質学会」が設立されました。こうした学界の動きは、環境ホルモン対策の推進に大きな役割を果たすものと期待しています。

私は、環境ホルモン問題を解決するためには、情報の交換や普及が極めて重要と考えています。世界各国の調査研究で得られた情報を互いに交換し、意見交換を行うことが、科学的な理解を深め、賢明な解決策を見いだすために不可欠です。また、環境ホルモン問題は、私たちの生活にとって身近な問題であることから、最新の情報や知識を市民にわかりやすく提供する場を設けることが必要であると考えます。

このような観点から、環境庁では、日本内分泌攪乱化学物質学会のご協力を得て、きたる12月11日から13日までの3日間、国立京都国際会館において環境ホルモンに関する国際シンポジウムを開催することといたしました。

このシンポジウムは、内外の第一級の研究者や行政の担当者、産業界、環境NGOの代表者を多数お招きし、世界の専門家が最新の科学的情報を披瀝し意見交換を行う場にするとともに、市民の方々へのわかりやすい情報提供の場とすることを目指しています。

多くの方々がこのシンポジウムに参加され、それぞれの立場で環境ホルモン問題への理解を一層深め、その解決の道を共に見いだすきっかけとされることを期待しています。

環境庁長官 真鍋 賢二

プログラム

1998年12月11日(金) [研究者向けプログラム]

9:30	環境庁挨拶
9:50	特別講演 : OECD の内分泌攪乱化学物質問題への取組 Robert Visser 課長 (OECD)
10:30	第一部 スクリーニング法・作用メカニズム Dr. Anthony Maciorowski (EPA, USA) Dr. Dennis B. Lubahn (Univ. of Missouri, USA) Dr. Ana M. Soto (Tufts Univ., USA) Dr. William R. Kelce (Monsanto Company, USA)
12:50	昼 食
14:00	第二部 人への影響 Prof. Ellen K. Silbergeld (Univ. of Maryland, USA) Dr. Thomas J. Darvill (State Univ. of New York, Oswego, USA) Dr. John W. Brock (CDC, USA) Prof. Shanna H. Swan (Univ. of Missouri, USA) 森 千里氏 (京都大学) 住吉 好雄氏 (横浜市愛児センター)

1998年12月12日(土) [研究者向けプログラム]

9:00	特別講演：日本内分泌攪乱化学物質学会の取組 森田 昌敏氏 (国立環境研究所)
9:30	第三部 野生動物への影響 Dr. John A. McLachlan (Tulane Univ., USA) Prof. Louis J. Guillette Jr. (Univ. of Florida, USA) Dr. Tyrone B. Hayes (Univ. of California, Berkeley, USA) Dr. William Bowernan (Lake Superior State Univ., USA) Dr. Nancy D. Denslow (Univ. of Florida, USA) 横田 弘文氏 (財団法人 化学品検査協会)
12:50	昼 食
	【日本内分泌攪乱化学物質学会ポスターセッション】
14:30	第四部 毒性・リスク評価 Dr. Frederick S. vom Saal (Univ. Missouri, USA) Dr. Ibrahim Chahoud (Free University Berlin, Germany) Dr. John Ashby (Zeneca Central Toxicology Laboratory, UK) Dr. Peter Klärner (BSFA, Germany)
17:00	総合討論 2日間の各セッションを通して、様々な観点から総合討論を行っていただきます。 指定コメント：名和田 新氏 (九州大学) ほか
18:30	(レセプション)

1998年12月13日(日) [市民向けプログラム]

9:30	真鍋賢二 環境庁長官挨拶
9:45	第一部 内分泌攪乱化学物質問題とは？ 鈴木 継美氏 (日本内分泌攪乱化学物質学会長) Dr. Daniel Sheehan (FDA, NCTR, USA) Dr. Larry L. Needham (CDC, USA) 田辺 信介氏 (愛媛大学)
12:15	昼 食
13:30	第二部 各界の内分泌攪乱化学物質問題への取組 各国行政機関、産業界、環境NGOなど、本問題に対する取組について紹介していただきます。 Prof. Nicolas Olea (Univ. of Granada, Spain) Dr. Geoff Brighty (Environment Agency, UK) ほか
15:15	休 憩
15:30	第三部 総合パネルディスカッション 研究者、産業界、環境NGO、ジャーナリストなどが一同に会し、内分泌攪乱化学物質問題の解決に向けた建設的で具体的な討論をしていただきます。 Dr. John Peterson Myers (W. A. Lton Jones Foundation, USA) 井口 泰泉氏 (横浜市立大学) ほか
17:00	閉会の挨拶：澤 宏紀 環境保健部長 (環境庁)

*一部予定を含みます。

国際シンポジウムのプログラムについて

本シンポジウムは、2部構成になっています。

11日、12日の2日間は研究者を対象としたプログラムで、専門的な内容について科学的な議論を深めることを目的として、セミナー形式で開催されます。

13日は、国民の幅広い参加いただくためのプログラムで、研究者だけでなく、行政、産業界、環境NGO等の各界から取組状況を報告いただくとともに、パネルディスカッションを行います。

参加申込ご案内

申込方法

往復ハガキに氏名、所属、住所、電話・ファックス番号、参加希望日を記載の上、下記運営事務局（株式会社コングレ）宛にお送りください。

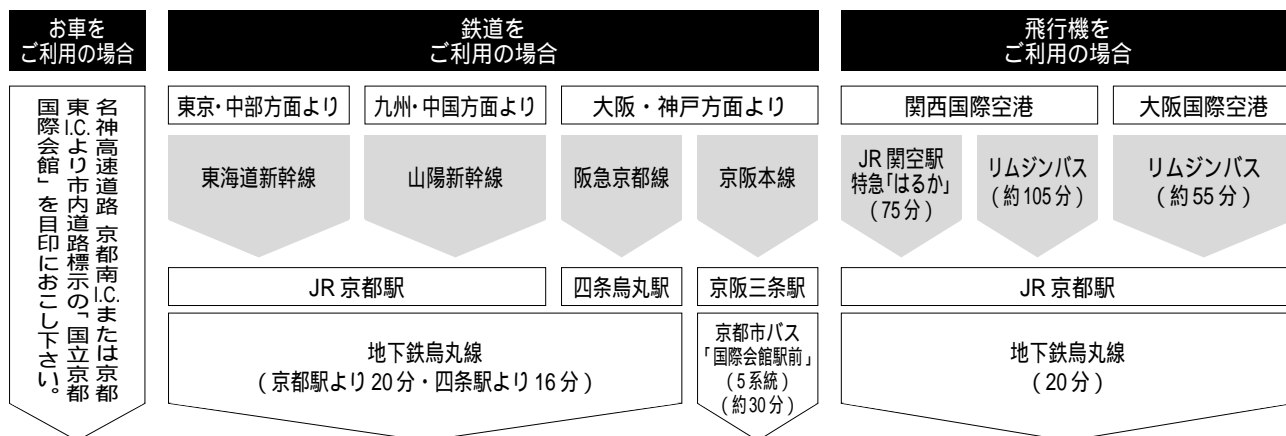
宛先 〒102-8481 東京都千代田区麹町5-3 第7秋山ビルディング
株式会社コングレ「内分泌攪乱化学物質問題に関する国際シンポジウム」運営事務局

申込締切 11月27日（金）
* ただし、締め切り前に定員を超えた場合は先着順とし、その時点で申込を終了いたしますので、ご了承ください。（定員 11・12日 -700名、13日 -1500名予定）

参加費 無料（レセプションは有料。お問い合わせください。）
使用言語 日本語・英語（同時通訳あり）

会場のご案内

会場 国立京都国際会館（11・12日 - アネックス、13日 - メインホール） TEL:075-705-1234
京都市左京区宝ヶ池
京都市営地下鉄烏丸線 国際会館駅 下車 徒歩5分（地下鉄烏丸線 京都駅～国際会館駅 約20分）



国立京都国際会館

お申込・お問い合わせ先

株式会社コングレ

「内分泌攪乱化学物質問題に関する国際シンポジウム」運営事務局

TEL: 03-3263-5394 FAX: 03-3263-4033 e-mail: speed98@congre.co.jp

シンポジウムに関する問い合わせ先

環境庁環境保健部環境安全課

TEL: 03-3581-3351 FAX: 03-3580-3596 e-mail: ehs@eanet.go.jp